



みんながつながり 夢を育てる学校に

国立二小だより

平成30年6月1日

国立市立国立第二小学校

校長 小林 理人

「何のため」を意識した生活

校長 小林 理人

国立二小の職員室には「何のため」と書いた紙が掲示されています。それは、私たちが仕事の目的を常に意識するための大切な言葉です。

私たちの仕事や子供たちの活動には全て目的や意味があり、それを理解し、意識して行うことで成果が上がります。それを理解できないままに進めれば時間や労力の浪費につながり、達成感や成就感を得ることなく、多忙感や疲労感だけを感じるようになります。私たちは、この「何のため」という言葉を意識し、日常の忙しさに心を奪われることなく、仕事や活動の目的や意味を理解し、子供たちの指導を行うよう心がけています。

きまりや約束の指導

「何のため」を意識することは、子供たちへの指導にも必要です。5月は「安全な生活を送ろう」を生活目標として様々な取組をしました。学校のきまりや約束は、自由や創意を奪うものではなく、みんなの自由や創意を保障するものです。子供たちは、きまりや約束が集団生活には必要なものであり、みんなが安全な生活を送るためにあることを様々な機会に学びました。

国立二小には、校門から昇降口まで人が歩く「道」が整備されています。二小の子供たちにとっては、当たり前風景であり、その「道」を意識することなく過ごす子供が多いようです。5月の全校朝会で、二小の「道」の話をしました。道があることで運動場や遊び場で思い切り遊んだり、門から昇降口まで安心して歩いたりできることや、二小の自慢である桜など四季折々の植物と共生ができることなど、「道」の目的や良さについて話しました。これまで、道を意識することが少なかった子供たちも、「道」がある目的や意味をしっかりと理解し、「道を歩こう」と声をかけあいながら生活ができるようになりました。

主体性を生かした活動

「何のため」を意識することで、子供たちは主体的に活動できるようになります。5月は活動の目的(何のため)をみんなに伝えることで、子供たちが主体性を発揮し、活躍する場面がありました。

5月の休み時間には運動委員会の「みんなで縄跳びを楽しもう」「絆を深めるためにみんなで教え合い、励まし合おう」の声掛けで縄跳びをしました。高学年が低学年に短縄跳びの技を優しく教えたり、友達同士励まし合って長縄跳びをしたりするなど、子供たちは主体的に活動し、友達やクラスみんなで活動する楽しさを味わうことができました。

また、代表委員会の子供たちは、世界の子供たちの命と健康を守るための募金活動を行いました。事前に行ったユニセフ集会で募金を行う目的をしっかりと伝えたこともあり、たくさんの子供たちが募金活動に参加し、心のこもった募金活動を主体的に行うことができました。

子供たちの募金活動に対する保護者の皆様の温かいご支援に心から感謝いたします。

このように「何のため」を意識した指導や活動により、二小の絆の深まり(団結力)を感じる5月となりました。6月は「ふれあい月間」です。ふれあい月間は、友達の心を感じ、人や物に思いやりや優しさをもって関わること(共感)を意識して生活をします。そして、5月の教育活動を通して培った団結力や、今年目標でもある「あたたかい言葉」や「明るいあいさつ」を大切に、学級、学校の絆が更に深まるようにします。